



日に美しく 日にたくましくのびていく いのちあふれて みんなの学校 ああ兼山

10月より、学校評議員会(校長の求めに応じて評議員が意見を言い、それを校長が学校運営に生かしていく)が学校運営協議会(委員が学校の教育目標・計画や地域との連携の進め方などを承認し、校長の行う学校運営について意見を述べるができる)に変わります。学校運営協議会が設置される学校をコミュニティ・スクール(以下「CS」)と呼びます。私は、兼山小の未来にぴったりの制度だと思っています。今回の表題は、校報2号でも引用しました大好きな本校校歌の4番の一節ですが、一部変えました。お気づきですか?「楽しい学校」を「みんなの学校」としています。その心は…

CSについて文科省HPからの資料を載せました(小さくてすみません)。詳しく知りたい場合は、学校までお尋ねください。私は、CSとは、保護者や地域住民が学校で学ぶ子どもたちの教育活動にこれまで以上に積極的にかかわっていく学校だと捉えています。さらに、そこで生まれる人間関係や諸活動は、自分の力を世のため人のために活かすことができる人づくり、活気のある地域づくりに広がっていくと考えています。

兼山小の児童数の減少を受け、可児市は小規模特認校制度をR4年度から開始しました。現在この制度を活用して11名が元気に学んでいます。今後もさらに増えることを願い、市教委と相談しながら制度の周知を図っていきます。学校は人間関係を学ぶ場でもあります。関わる相手は多くて、様々な立場の人がいるとよいです。CSが始まると、保護者や地域住民との関わりが多くなります。地域住民というと、これまでサロン交流でお年寄りの方々との交流をしてきました。さらに、地域に住んでいる中高生・大学生・社会人…これまで少なかった子どもたちに近い年齢の大人との出会いの機会もできるでしょう。特認校です。出会いは兼山にとどまらず可児市内全域にも広がるのが期待できます。そのアイテムには、兼山の宝「金管バンド」があります。10月には市外ですが八百津町立久田見小との音楽交流会を企画しています。ふるさとから学ぶ「兼山学」もあります。森家をたどり、岡山県津山市の小学校との交流なんて県外にも出会いを広げることも…コロナでくすぶっていた「人とかかわる」ことを再開します(コロナ・インフルエンザ対応は緩めません)。教科等の授業内容との関連を図り、よりダイナミックな教育活動を進めたいです。そう考えたとき、兼山小学校は子どもたちを中心に、関わる人たち「みんなの学校」だという思いに至ったのでした。兼山だからできること、それを考えたすとワクワクしてきませんか?「楽しい学校」であることは間違いないです。

[https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community]

